

河西便り



第9号 世界津波の日 (避難訓練)
2021.11.11 河西中学校

11月5日 世界津波の日 ～避難訓練～

平成27年(2015年)12月、国連総会において、毎年11月5日は「世界津波の日」と制定されました。

この日が「世界津波の日」とされたのは、安政元年(1854年)11月5日、安政南海地震による津波がいまの和歌山県広川町を襲った際、濱口梧陵が稲むらに火をつけ、津波から逃げ遅れた村人を高台へ導いて、多くの命を救った逸話「稲むらの火」の故事にちなんだものです。

11月5日 世界津波の日
Nov.5 World Tsunami Awareness Day

「稲むらの火」の主人公 濱口梧陵の偉業

必ずやってくる! 地震・津波に備えよう
南海トラフで発生する地震

津波避難3原則
1. 想定にとらわれない
2. 最善を尽くせ
3. 率先避難者になれ

緊急地震速報の活用

(和歌山県教育委員会)

さて、本校も11月5日(金)10時の防災無線放送のサイレンとともに、シェイクアウト、避難訓練を行いました。まずは、机の下に退避し、教頭先生の放送指示に従って、各学年がそれぞれの避難経路を確認しながら、グラウンド避難しました。

各担任→学年主任→教頭先生→校長先生へと全員集合の報告が完了しました。今回のシェイクアウト、避難訓練実施あたり、和歌山県警察本部生活安全部少年課田中警部補に総括アドバイザーとして来校願い、総評していただきました。

「日本の太平洋側には、南海トラフという海溝があります。この海溝で発生する地震の確率は10年以内20%~30%。50年以内では90%程度もしくは、それ以上ともいわれています。これは、あくまで確率ですので、いつ発生してもおかしくない状態だといえます。

南海トラフで巨大地震となれば、マグニチュード9.1、震度7クラスの地震が発生するといわれています。それにより津波が発生する場合があります。巨大地震の津波の第一波は、和歌山市内に約40分で到達し、高さが最大で8m(4階建のビル程度)と想定されています。それに、津波は第一波だけでは終わりではなく、第二波の方が高くなる場合もあります。地震による死者は和歌山市で9万人ともいわれ、そのうちの8万5千7百人が、津波の被害と想定されています。

災害はいつ、どこで、自分がどういう状態のときに起こるかわかりません。そこで皆さんに心がけていただきたいことがあります。それは、津波避難3原則というものです。

- 『想定にとらわれるな』
安全だと思い込むことは大きな落とし穴にはまる可能性があるということ。
- 『最善を尽くせ』
その状況下で、できうる限りの行動をとってほしいのです。あきらめない、常に海からより遠く、より高いところへ避難すること。
- 『率先避難者たれ』
一人でも率先して避難することで、多くの人がつられて行動を始めるのです。自らが率先して逃げることで、多くの命を救うことにつながるかもしれません。

東日本大震災では、死者が15,894人、行方不明者2,546人と、多くの方が亡くなり、未だ行方不明の方が多数となっています。犠牲になった方の尊い教訓絶対に忘れてはいけない、伝えていかななくてはならない、という思いで、日々訓練や教養をしていまう。みなさんも、この様な訓練を重ねることで、全員が津波から助かるものと信じています。

